

松本歯科大学病院 薬局では、以下の研究を実施しています。この研究について詳細に知りたい方は、「問い合わせ先」までお問い合わせください。

また、この研究の研究対象者に該当すると思われる方で、ご自身の試料・情報を「この研究課題に利用（又は他の研究を行う機関に提供）してほしくない」と思われた方は、試料・情報の使用を拒否することができますので、「試料等の研究への利用に関する不同意書」をご提出ください。

研究の名称	歯科医療における抗菌薬使用動向と薬剤耐性対策の現状と課題
研究責任者	松本歯科大学病院 実施責任者 花岡平司 連絡先 0263-51-2099
研究期間	2020年2月1日～2022年3月31日
研究の目的・概要	2016年に薬剤耐性対策アクションプランが公表され、抗菌薬適正使用がさらに求められており、特に経口抗菌薬使用量が問題になっている。歯科領域において第三セフェム、マクロライド、キノロン系抗菌薬の経口投与が多く、これは薬剤耐性アクションプランにおいて成果指標として使用量削減が設定されている。しかし歯科大学病院において薬剤耐性対策の現状や各施設間での抗菌薬使用量の比較検討を行った研究は少ないです。よって各歯科大学病院における薬剤耐性対策の現状を調査し、さらに抗菌薬使用量を各施設間で比較できる指標(抗菌薬使用密度や抗菌薬使用日数)を用いて調査します。ついで、松本歯科大学病院においても抗菌薬使用動向を調査し情報を提供することにより共同研究結果をICT・感染対策委員会にて耐性菌対策の参考資料とします。
利用又は他機関に提供する情報	2019年10月1日～2019年10月31日までの松本歯科大学病院における、外来処方箋枚数、入院処方箋枚数、外来注射抗菌薬使用量、入院注射抗菌薬使用量、内服抗菌薬投与日数、処方抗菌薬種類、外来延べ患者数、入院延べ患者数
試料・情報の利用目的及び利用方法(他の機関へ提供する場合はその方法を含む)	薬剤耐性対策の調査について各歯科大学病院薬剤科共通アンケート調査に答え、他施設の薬剤耐性対策の現状を把握する。 抗菌薬使用量調査は、注射抗菌薬については抗菌薬使用密度 AUD(antimicrobial use density) を用いて、経口抗菌薬については抗菌薬使用日数: DOT(day of therapy) を用いて1ヶ月間に処方された抗菌薬について調査する。 各施設間で比較検討し、抗菌薬使用動向を検証する。 調査した薬剤耐性対策と抗菌薬使用動向を比較検討し、関連性を調査する。
試料・情報を利用する者の範囲	神奈川歯科大学附属病院薬剤科、日本歯科大学新潟病院薬剤科、北海道医療大学病院薬剤部、岩手医科大学附属病院医科医療センター、奥羽大学歯科附属病院、日本大学松戸歯学部附属病院薬剤室、明海大学歯学部附属明海大学病院、日本歯科大学附属病院薬剤室、東京歯科大学水道橋病院薬局、東京歯科大学千葉歯科医療センター薬局、昭和大学歯科病院薬局、鶴見歯科大学病院、愛知学院大学歯学部附属病院、朝日大学医科歯科医療センター大阪医科大学附属病院薬剤科、福岡歯科大学医科歯科総合美容院、神奈川歯科大学附属横浜クリニック
問い合わせ先	松本歯科大学病院 薬局 (実施責任者) 花岡 平司 電話番号 0263-51-2099